

石神井公園ふるさと文化館 所蔵資料リスト

【文書類】

番号	分類	名称	内容等	縦×横	備考
1	文書	小島家文書	江戸時代の土支田村下組名主を勤めた小島家の文書群。江戸時代から昭和戦前期までの土支田地域の様子を知ることができる資料。	約1,500点	寛文3年(1663)～明治時代
2	文書	荘家文書	江戸時代に橋戸村(現大泉町)の村役人を勤めた荘家の文書類。旧橋戸村の様子を知ることができる資料。	約100点	寛政2年(1790)～明治時代
3	文書	千川家文書	千川上水の歴史を広く知ることができる千川上水絵図など江戸期、明治期の文書・記録・絵図類297点。	江戸期168点 明治期62点 不詳67点	元禄9年(1696)～明治17年(1884)
4	文書	中野屋商店文書	下土支田村で、肥料や雑貨などを販売していた中野屋商店(加藤家)の営業関係文書類。商店営業の様子を知ることができる。	約100点	明治7年(1874)～昭和6年(1931)
5	文書	木下家文書	下練馬宿で本陣を経営し、名主を勤めていた木下家の文書類。將軍就任前の徳川綱吉に係ると思われる「御殿」の地名が記されている替地証文がある。	53点	寛永19年(1642)～明治時代
6	文書	栗原家文書	上石神井村の名主、石神井村の村長などを勤めた栗原家に伝わる江戸時代から昭和初期までの上石神井地域の絵図や文書類。	52点	天保2年(1831)～昭和8年(1933)
7	文書	武内家文書	江戸時代に下練馬村で農業と大工を営む半農半工であった武内家に伝わる文書類。雛形大匠手鑑など建築関係の書籍を中心とする資料。	119点	江戸時代中期～昭和初期
8	資料	森田家資料	江戸時代後期から旧中荒井村で代々医院を営む家に所蔵されていた医学書・教養書を中心とする資料。	317点	江戸時代～明治時代末
9	資料	内国勲業博覧会褒状	明治10年(1877年)の内国勲業博覧会に、上練馬村の相原房次が沢庵漬を出品した折に受けた褒状。	1点	明治10年(1877年)

【地図】

番号	分類	名称	内容等	縦×横	備考
1	絵図	下練馬村絵図	下練馬村の道や川掘・田、村境、家屋舗などの情報やまちの様子が詳細に描かれている寛政4年 1798 作成(写し)の絵図	-	
2	絵図	上石神井村絵図	上石神井村の道、用水、田の様子が描かれている文久元年(1861)作成の絵図	-	栗原家文書絵図
3	絵図	上石神井村絵図	上石神井村の田、畑、道、川筋の様子が描かれている慶應4年(1868)作成の絵図	-	栗原家文書絵図
4	絵図	上石神井村絵図	上石神井村の田、用水の様子が描かれている絵図(江戸時代 作成年次不詳)	-	栗原家文書絵図
5	絵図	上石神井村絵図	上石神井村の田、畑、用水の様子が描かれている絵図(江戸時代 作成年次不詳)。ふじ大山道は、「道者道」と記載されている。	-	栗原家文書絵図
6	絵図	羽村表水門之図	千川上水の本流の玉川上水が羽村(羽村市)で多摩川から取水している水門付近を描いた絵図。江戸期から明治初期の作成。	-	千川家文書絵図
7	絵図	板橋宿付近千川用水堀絵図	中山道の板橋宿付近を流れる千川上水を描いた絵図。江戸時代の作成。	-	千川家文書絵図

8	絵図	千川分水口取調絵図	取水口である上保谷新田(西東京市)から巢鴨村(豊島区)までの素掘りの部分の千川上水を描いた絵図。元治元年(1864)に作成されたが、明治初期に修正・加筆されている。	-	千川家文書絵図
9	絵図	土支田村下組絵図	土支田村下組の荒地、取下ゲ池、木引地、用水、道の様子が描かれている天保4年(1843)作成の絵図	-	小島家文書絵図
10	絵図	江戸上水配水図	江戸時代の江戸市中への配水状況がわかる絵図。享保2年(1717)頃から享保3年(1718)の作成。玉川上水、青山上水、三田上水、千川上水、神田上水が描かれている。	-	千川家文書絵図
11	絵図	千川用水絵図	千川上水の分水やその水を利用した水田が描かれた絵図。明治17年(1881)の作成。	-	千川家文書絵図
12	絵図	竹下新田之内千川用水堀絵図	千川上水が青梅街道と交差する付近を描いた絵図。江戸時代の作成。	-	千川家文書絵図

【写真・フィルム】

番号	分類	名称	内容等	縦×横	備考
		千川上水記録フィルム	千川上水の風景を記録した写真。暗渠化が練馬区内で本格化する直前の昭和27(1952)年頃に撮影された。玉川上水から取水する付近から巢鴨付近までの、練馬を中心とした千川上水沿いの風景の記録。		
1	写真	西東京市新町6丁目付近	玉川上水から取水する千川上水。向かって右側の流れが千川上水、左側の流れが玉川上水。	-	カラー写真
2	写真	西東京市新町6丁目付近	玉川上水から千川上水が取水する水量を調整するための水量調整弁。	-	カラー写真
3	写真	武蔵野市桜堤2丁目付近	千川上水の取水口から、玉川上水の少し下流に設けられた堰。	-	カラー写真
4	写真	武蔵野市桜堤2丁目付近	千川上水の取水口の辺りから、玉川上水を下流に向かって眺める。	-	カラー写真
5	写真	西東京市新町5丁目付近	向かって左に玉川上水堤が見える。道は五日市街道。	-	カラー写真
6	写真	西東京市柳沢付近(推定場所)	向かって右の木立ちの付近を千川上水が流れている。	-	カラー写真
7	写真	練馬区関町南3丁目付近	手前の流れが千川上水で、正面の道は青梅街道。	-	カラー写真
8	写真	練馬区関町南1丁目付近	青梅街道からやや下流付近を流れる千川上水。	-	カラー写真
9	写真	練馬区上石神井1丁目付近	昭和40年(1945)頃まで、千川上水の水で稼働していた田中水車。	-	カラー写真
10	写真	練馬区南田中付近(推定場所)	千川上水の向かって右側の校舎は、この地にかつてあった育英工業高等専門学校が。	-	カラー写真
11	写真	中野区上鷲宮4丁目付近	千川上水にかかる簡便な橋は、上水沿いの民家が自家用のためにかけたもの。	-	カラー写真
12	写真	中野区上鷲宮4丁目付近	千川上水の向かって左側に畑が広がる。	-	カラー写真
13	写真	中野区上鷲宮4丁目付近	千川上水にかかっていた九頭竜橋。橋は富士見台駅入口付近交差点にかつてあった。	-	カラー写真

14	写真	練馬区中村北4丁目付近	中村橋駅付近から少し西側の所。兩岸に民家が多くなり、二階家が見える。	-	カラー写真
15	写真	練馬区中村北付近 (推定場所)	中村橋駅付近か。向かって左側が千川通り。	-	カラー写真
16	写真	練馬区中村北2丁目付近	向かって右側に畑が広がり、千川上水畔を農夫が歩く。	-	カラー写真
17	写真	練馬区中村北1丁目付近	千川上水に石橋がかかっている。向かって右手に麦畑が見える。	-	カラー写真
18	写真	練馬区中村北1丁目付近	千川上水沿いの千川通りをボンネット型のバスが走る。	-	カラー写真
19	写真	練馬区中村北1丁目付近	千川上水の中新井(上新街)分水の取水口。この分水は、中新井川に合流していた。	-	カラー写真
20	写真	練馬区豊玉北6丁目付近	千川上水畔にあった日川地蔵。地蔵は現在、南蔵院墓地(練馬区中村)に移されている。	-	カラー写真
21	写真	練馬区豊玉北6丁目付近	千川上水畔にあった施餓鬼供養塔。供養塔は現在、南蔵院墓地(練馬区中村)に移されている。	-	カラー写真
22	写真	練馬区豊玉北6丁目付近	練馬駅のやや東側の商店街を流れる千川上水。上水の両側に商店が連なる。	-	カラー写真
23	写真	練馬区豊玉北6丁目付近	向かって左側の鉄製の構造物は、石神井川から千川上水へ水を引いた水量を調整する弁。	-	カラー写真
24	写真	練馬区練馬1丁目付近	現在の練馬消防署付近を流れる千川上水。向かって右側が千川通り。	-	カラー写真
25	写真	練馬区桜台1丁目付近	千川上水畔の桜。この辺りは、大正4年(1915)に桜が植樹され、桜の名所になっていた。	-	カラー写真
26	写真	練馬区栄町付近	手前の流れが千川上水の主流、奥の流れが下練馬村分水。	-	カラー写真
27	写真	練馬区栄町付近	向かって左側に樹木がある所は武蔵大学。千川上水の暗渠化が進められている様子。	-	カラー写真
28	写真	練馬区旭丘1丁目付近	千川通りと江古田銀座の分岐点にあった千川上水堤植桜楓碑。碑は、現在、付近の浅間神社に移設されている。	-	カラー写真
29	写真	練馬区旭丘1丁目付近	千川通りと江古田銀座の分岐点からやや東方の場所。千川上水の両側に旧江古田町(旭町)の街並みが見える。	-	カラー写真
30	写真	練馬区旭丘1丁目付近	千川上水の暗渠工事がかなり進み、水の流れがすでに見られなくなっている。	-	カラー写真
31	写真	練馬区旭丘1丁目付近	千川上水が暗渠化された直後の様子。子どもが歩いている所に上水が流れていた。	-	カラー写真
32	写真	豊島区南長崎6丁目付近	千川上水畔にあった千川地蔵。地蔵は現在、能満寺(練馬区旭丘)に移されている。	-	カラー写真
33	写真	豊島区南長崎6丁目付近	東長崎駅・江古田駅間で西武池袋線と交差する千川上水。	-	カラー写真
34	写真	豊島区要町3丁目付近	現在、豊島区立千川児童遊園になっている所。千川上水はすでに暗渠化されている。	-	カラー写真
35	写真	豊島区要町3丁目付近	手前から奥へ流れるのは千川上水主流。向かって右の手前の流れは長崎分水。	-	カラー写真
36	写真	板橋区大谷口付近 (推定場所)	千川上水は、石橋の手前では開渠であるが、石橋の下流ではすでに暗渠化されている。	-	カラー写真
37	写真	板橋区板橋1丁目付近	現在、板橋区立板橋一丁目児童遊園になっている所。第二次世界大戦前・戦中は東京第二陸軍造兵廠板橋製造所、戦後はGHQ関東軍政部がここで千川上水から取水していた。	-	カラー写真

38	写真	北区滝野川6丁目付近	千川上水は奥から手前へ流れていたが、第二次世界大戦前に、すでに暗渠化された。ここで王子方面に分水していた。	-	カラー写真
39	写真	豊島区西巣鴨2丁目付近	現在、豊島区立千川上水公園になっている場所。千川上水は、かつて取水口からこの付近まで素掘りの水路となっていた。	-	カラー写真

【くらしの道具】

番号	分類	名称	内容等	縦×横	備考
1	生産・生業 (山樵)	木挽鋸	製板するために、大木を挽くノコギリ。	最大幅34cm、刃渡り48cm、歯数28、柄の長さ24cm	鉄、木
2	生産・生業 (自然物採集)	筵(ど)	小川や水田に仕掛け、魚を獲る道具。	全長50cm、大口径13cm、小口径3cm(内部)	竹
3	生産・生業 (農耕)	踏鋤(踏鋤)	耕作、地ならしなどに使う深耕用の農機具。別名、「踏鋤」または「えんが」ともいう。	柄の長さ178cm、刃床部の長さ80cm、刃先幅14cm、据付角30度	木
4	"	短床犁	扱いやすく、しかも深く耕せるように、刃先や取り付け角度に工夫がこらされた農機具。昭和30年代に動力式耕うん機が普及するまで使用された。	練木の長さ120.5cm、犁身の長さ115.0cm、犁先へらの長さ48.0cm、へら最大幅20.0cm	木、鉄
5	"	車馬鋤	牛や馬に牽引させて田んぼの荒起こしや代掻きをする農機具。片手に手綱を持ち、片手に馬鋤の取っ手を持って馬を誘導する。	杷柄の長さ122cm、支柱の高さ76cm、桁の長さ93cm、風車状歯車12個2列、引木の長さ160cm	木、鉄
6	"	土ふるい	苗床づくりに用いた。腐葉土ふるい、苗床にかけた。	篩部(径45cm、深さ9cm)、網目・対角線1.5cm六角形	木、鉄
7	"	ひょうたん	瓢箪を加工した種入れ用の容器。	全高21cm、底径12cm、上部径6.5cm、口径1.5cm	瓢箪
8	"	種まき器	円筒形ブリキ容器に種子を入れて、種まきした道具。底に9個の穴があり、手動式で土に押し付け、種を落とすことにより種をまく播種器。	全高74cm、柄の長さ45cm、種子容器：高さ36cm、径10cm、穴径1cm(9個)	木、ブリキ
9	"	種まき器	円筒形ブリキ容器に種子を入れて、種まきした道具。底に穴があり、手動式で土に押し付け、種を落とすことにより種をまく播種器。	径11.0cm、高さ69.0cm	木、ブリキ
10	"	種まき器	木製容器に種子を入れて、畑上を転がし種まきした道具。ローラーの回転で種を落とすことにより種をまく播種器。	全高125.5cm、柄の長さ70.5cm、種子容器：18cm×14cm×20cm、導輪径16cm、幅11cm	木、鉄
11	"	種まき器	木製容器に種子を入れて、畑を転がし種まきした道具。ローラーの回転で種を落とすことにより種をまく播種器。	柄の長さ95cm、本体：長さ80cm、幅15cm、高さ44cm	木、鉄、プラスチック
12	"	種まき器	容器に種子を入れて、ローラーを回転させ種を落とすことにより種をまく播種器。	幅17.0cm、奥行20.0cm、高さ153.0cm	鉄
13	"	田舟	かつて練馬にもあった田圃の田植え時に用いた深田用用具。刈り取った稲運びなどに使用された。	全長184cm、最大幅82cm、深さ22cm	木

14	"	かんじき	田下駄の一種。田植えなどに用いた沈み込みを防ぎ、農作業を軽減するための深田用のかんじき。	長径33cm、短径21cm	木、縄紐
15	"	蓑	農作業時に雨を防ぐため着用した藁製の合羽。	最大幅80cm、肩の部分幅70cm、長さ121cm	藁
16	"	カルチベータ	畑を中耕し、除草する農機具。つめ部品をつけることで簡易耕起、碎土、あぜたて、あぜならし等様々に利用できた。	ハンドルの長さ126.5cm、定規車の径38.5cm、爪の長さ21cm、据付角133度	鉄、ハンドル:木
17	"	肥桶	畑等に施す下肥を運搬するための蓋付きの桶。	総高56cm、桶の高さ44cm、口径37.5cm、4kg	木
18	"	豆粕切り	肥料用の豆粕を切断した道具。	木枠長さ36.5cm、幅31.8cm、高さ70cm、取手98cm、鉋刃渡り10.1cm	枠:木、刃・止具:鉄
19	"	フォーク	堆肥を混ぜるための農機具。	爪の長さ31cm、桁幅23cm、柄の長さ82cm	鉄、木
20	"	田の草取り機	サシナミ式除草機。田の中で使用する中耕、除草兼用の農機具。	柄の長さ100cm、刃床の長さ60cm、幅14cm、据付角145度	鉄
21	"	湯桶	畑に肥料の液肥を注ぐ農機具。現在のジョウロ。	総高52cm、桶の高さ31cm、口径30cm、曾々木口の長さ35cm	桶:木、タガ:針金、注ぎ口:竹
22	"	ねずみ捕り器	ねずみの捕獲用具。	縦17cm、横11cm	木、鉄
23	"	献穀柱	昭和39年度の新嘗祭に、区内の農家が粟を献穀した際の畑を表わす標識。	長さ297cm	木、紙
24	"	肥びしゃく	下肥えを肥桶に入れたり、畑で肥桶から施肥する際に使用したひしゃく。	全長145.0cm、柄の長さ117.0cm、ひしゃく部18.0cm、深さ11.5cm	木
25	"	唐臼	米麦を精米するための粳摺り用の道具。上部の臼を回転させ、粳をすり、粳殻を除去して玄米にした。	口径42cm、最大径70cm、高さ56cm	竹、粘土、木
26	"	唐箕	穀物から秕(しいな)、もみ、ごみなどを吹分ける選別用の農機具。	長さ151cm、高さ119.5cm、幅39cm、じょうご入口59cm×60cm	木、ハンドル:銀
27	"	五百石通し	木枠に金網を張った大きな篩(ふるい)を傾斜状にして、選別したい穀物を流し落とし、網目より小さい塵等は下に落ち、大きい穀物は下まで到着させて選別する農機具。	篩部の長さ36cm、幅30cm、高さ59cm	木、金網
28	"	人参たわし	出荷用人参を洗うためのもの。棕櫚(しゅろ)縄で編んだたわし。	径13cm、紐の長さ12cm×12cm	棕櫚縄
29	"	いもかん	水を溜めた桶等に、土をあらかじめ取り除いた芋を入れてきれいに洗う棒。持ち手で持って攪拌し泥を落とす道具。	かな幅35cm、持手の幅44cm、持手の長さ158cm	木
30	"	むしろ編み器	櫛型のむしろ編み器。	長さ98cm、歯の高さ17cm、歯数19	木
31	"	漏斗(じょうご)	穀物を依に詰めるために用いる漏斗。竹編み製。	開口部の径55cm、高さ32cm、下部の径20cm	竹
32	"	わらじ編み器	わらじやぞうりを編むために使用用具。	高さ9cm、長さ75cm、指数4	木

33	"	さし	俵に突き刺して、米の粒を引き出す時に使用された竹製の棒。米の等級を決める時に利用された。	全長27cm、刺し部の長さ12.5cm、径2cm	竹
34	"	麦刈り鎌	麦刈りや稲刈り用に用いた鎌。140g。	刃渡り19cm、刃幅3cm、柄の長さ36cm	鉄、木
35	"	大鎌	広野や土手に繁茂する草を刈るための鎌。900g。	刃渡り31cm、刃幅9cm、柄の長さ101cm	鉄、木
36	"	背負い籠	落ち葉や桑葉を運搬するための六ツ目編みの背負い籠。4kg。	口径68cm、高さ69.5cm	竹、縄・布
37	"	背負い籠	山樵道具等を運搬するための箆目(ざるめ)編みの背負い籠。3.2kg。	口径31cm、最大径40cm 高さ48.5cm	竹、藁、布
38	"	印籠籠	キャベツや白菜等大型の野菜を入れて運ぶための籠。2.2kg。	縦31.5cm、横46cm、高さ32cm	竹
39	生産・生業 (染織)	管巻器	織機の杼(ひ)に入れる管によこ糸を巻きとる製糸道具。向かって右の糸巻き枠に巻き取った糸を管に巻きかえる。ぶうぶうと音を立てることから、酔って管を巻くの意味に形容されるようになった。	総高73cm、台の長さ92cm、軸の径60cm	木
40	"	藍ぶるい	藍葉を藍玉にする作業の工程で使われた道具。藍葉が固まらずまんべんなく発酵するよう、この籠に藍葉を入れて、籠を上から縄で吊るしてふるいにかけた。	縦78cm、横136cm、深さ19cm	竹
41	生産・生業 (製茶)	茶蒸し器	茶葉を蒸す道具。茶葉をじょうごの口に入れ、ハンドルを回すと茶葉が蒸されながら反対側の下の口から落ちるようになっていた。	高さ40cm、横93cm、縦24cm	木、鉄
42	"	焙炉	製茶に用いる乾燥炉。蒸した茶葉を炭火で乾燥させながら手もみするのに使用された。	高さ76cm、横132cm、縦85cm	紙、木、土
43	生産・生業 (諸職)	鞆(ふいご)	金属の精錬や加工に必要な火を起こすのに用いられた送風器。「大極上 式尺春高」の墨書がある。	縦61cm、横22cm、高さ36cm	木
44	"	とんぼ	石材加工の道具。石面の細部を仕上げる道具・槌	槌部の長さ23cm、最大幅5cm	金属
45	"	こべら	石材加工の道具。石面の細部を仕上げる道具・箆	全長23cm、中央の幅3cm、先端部の幅2cm	金属
46	"	棒サイズゲージ	棒屋資料。棒のサイズを測る道具。	写真左から3番目の道具:全長18.2cm、計測部(幅1.7cm、深さ2.4cm)	木
47	生産・生業 (諸工業)	大根洗い桶/半切り桶	大根を洗うために使用する桶。洗いやすいように横長になっている。	長径132cm、短径102cm、高さ38cm	木、針金(タガ)
48	"	鮫の皮	大根を乾きやすくするため、大根の皮を削るもの。大根の首の部分は、畑では地表に出ており皮が固くなって内部まで乾きにくいいため、鮫の皮で削ることが多かった。	約8cm×横9cmの四角形	鮫
49	"	中樽	沢庵漬けを造るのにも使用されたが、主に福神漬けを造るため使用された。	口径73cm、底径65cm、高さ71cm	木

50	"	四斗樽/漬物桶	たくあん漬けの製造の際に通常使用されたもので、干した大根を60本位漬け込んだ。「しとだる」と呼ばれた。	口径54cm、底径45cm、高さ54cm	木(タガ一部欠)
51	"	金爪(漬物石用)	漬物石を運ぶために使用したもの。	腕の長さ68cm、太径4cm、先端の爪の長さ18cm	鉄
52	"	前掛(高山食品株)	高松の漬物業者である高山食品が作業の際に使用したもの。	長さ68cm、幅84cm	布
53	"	練馬大根供養記念品	区内で生産が少なくなった時期の昭和36年(1961)12月に、練馬大根碑(春日町)の前で行われた練馬大根供養の際の記念品。	皿の直径27cm、全高5.5cm	金属
54	"	大樽(とうご)	大根などを大量に漬け込むために使用されたもので、沢庵漬けは一度に4000本以上を製造することができた。	未計測	木
55	"	半切り桶/半桶/盤切り	醤油醸造時に原料となる小麦や塩を入れる容器。	高さ12cm、口径(32cm×26cm)	木、銅
56	"	ざるぼう/キツネ桶	醤油醸造用の用具。もろみを絞る袋に移す時に使用する桶。	高さ22cm、口径(42cm×26cm)	木、竹。注ぎ口は檜材。
57	"	社名印/商標印	醤油醸造用の用具。樽や桶に捺す社名ゴム印。現東大泉で明治時代から大正時代に醤油・味噌の醸造元であった加藤合名会社本店の商業印。	縦11cm、横16cm	木、ゴム
58	"	もろみ樽	醤油醸造用の用具。もろみ入れ用の樽。	総高89cm、径75cm、底径66cm、蓋径75cm、厚さ1.5cm	木、竹
59	"	看板(指令七四八号 純粹生葡萄酒 金塚農園)	現栄町で葡萄酒づくりを行っていた金塚農園の看板。「金塚」は屋号。	縦70.5cm、横93.0cm、厚さ4.8cm	鉄
60	"	水車歯車	粉引き用などの水車の歯車。内輪に石臼等を固定して使用した。	直径94cm、内径41cm、歯の長さ8cm、歯数26	木
61	"	水車歯車	粉引き用などの水車の歯車	径23.5cm、厚さ3.4cm	木
62	"	水車用の石臼	粉引き用などの水車の石臼	内径36cm、高さ52cm、深さ42cm	石
63	生産・生業(その他)	鑑札(米津伊勢守領分)	米津領入会地への出入りを認める鑑札。「米津伊勢守分」との記載がある。	縦12cm、横7cm、板の厚さ1cm	木
64	交通・運輸(旅行用具)	信玄袋	衣類や手回り品を入れて、手にさげたり、肩に担いだりして持ち運んだ袋。主に旅行の際に使用された。	底(縦33cm×横60cm)、胴高52cm、紐の長さ57cm	布
65	"	バスケット	籐製の手さげ籠。外出の際に衣類や手回り品を入れて持ち運ぶもの。	縦21.7cm、横38.2cm、高さ54cm	木
66	交通・運輸(運搬具)	手鉤	米俵や麦俵にひっかけて、運びやすくする道具。	全長20cm、鉤の長さ4.8cm	鉄、木(柄)
67	"	御膳籠	料理を入れて天秤の両端にかけて運ぶもの。嫁入りの際に婚家に届ける食べ物、花見のご馳走、料理屋の仕出し料理などを運んだ。	縦47cm、横55cm、高さ37cm	竹
68	"	御膳籠	料理を入れて天秤の両端にかけて運ぶもの。嫁入りの際に婚家に届ける食べ物、花見のご馳走、料理屋の仕出し料理などを運んだ。	縦46cm、横54cm、高さ35cm	竹

69	"	自転車鑑札(練馬区)	自転車のナンバープレート。自転車税を支払って取り付けた。	縦10.5cm、横5.6cm、厚さ2mm	金属
70	交通・運輸 (車類・牛馬具)	大八車	野菜や沢庵漬けなどを運ぶのに使われた大八車。	長さ270cm、幅119cm、車軸の径110cm、荷台の高さ60cm	木、鉄(車輪、軸受、車輪の外側)
71	"	荷鞍	荷物をつけるため、馬の背に置いたもの。	全長51cm、全高40cm、鞍床の幅35cm	木、藁
72	"	牛わらじ	牛のひづめを保護するために、牛に履かせた藁製のわらじで、「牛のくつ」ともよばれる。	長径13cm、短径12cm、厚さ1.5cm	藁、布
73	"	飼葉桶	馬が食べる飼葉を入れる桶。遠出の際、出先で馬に飼葉を食べさせるため、持って行った。	深さ36cm、口径42cm、底径39cm	木、竹(タガ)、鉄
74	"	馬の鈴	馬の装着し、馬の動きを利用して音を出すもの。	長さ37cm	金属、糸
75	交易 (商業用具)	銭枿	同じ種類の貨幣を一度に数えるための道具。貨幣を置いて均すと枿の数で貨幣の数が判明した。	全長33cm、縦13cm、横22cm、一枿(縦1cm×横2cm)	木
76	"	銭箱	商店などの帳場に置き、受け取った金銭を一時入れておく箱。	縦30cm、横51cm、高さ18cm、銭入口(縦18cm×横28cm)	ケヤキ材、鉄
77	"	銭箱	商店などの帳場に置き、受け取った金銭を一時入れておく箱。	縦22cm、横32cm、高さ21cm、銭入口12cm)	木
78	"	帳場格子	商店で帳場の囲いにするもの。	縦40.5cm、横146cm、板の厚さ3cm、格子の間3.5cm	木、蝶番
79	"	前掛 (神田青果市場)	神田青果市場の前掛け。	縦72.0cm、横46.0cm	布
80	交易 (計算・計量具)	算盤(五つ珠)	5つ珠の算盤。現在は4つ珠が主流であるがかつては5つ珠が主流であった。	縦7.5cm、横33cm、桁数21	木、竹
81	"	竿秤	物の重さを測る道具。測ろうとするものを竿の鉤にかけ、分銅を竿の他端の鉤にかけ、竿が水平になりまで分銅を移動させた。釣り合ったところで竿の目盛を読み、物の重さを知ることができた。	竿の長さ156.5cm、竿の径4cm	木、鉄
82	"	彦根秤	小さな物を測る携帯用の竿ばかり。ヒョウタン型の木箱に入れて持ち運んだ。	竿の長さ21cm、皿の径7cm	木(容器)、鉄
83	"	天秤	物の重さを測る道具。一方の皿に測る物を載せ、もう片方の皿にの分銅を載せた。水平になれば、物の重さが分銅の重さとの対比で判明した。	竿の長さ16cm、皿の径7cm	木、金属
84	"	天秤	物の重さを測る道具。一方の皿に測る物を載せ、もう片方の皿にの分銅を載せた。水平になれば、物の重さが分銅の重さとの対比で判明した。	縦28cm、横76cm、高さ78cm(組立時)	木、金属
85	"	一升枿	一升(約1.8リットル)の容量は測るための道具。容量を測る枿の代表的なものは一升枿、五合枿、一合枿であった。	縦横共16.5cm、高さ9cm、厚さ1cm	木
86	"	おはち	炊きあがった御飯を移し入れ、冷めないようにする容器。蓋付き。	口径17cm、高さ14.5cm、蓋の径33cm、高さ4.5cm	木、銅

87	交易 (その他)	しおり	旧練馬大根ミニ博物館・鹿島鯨本店が作成したしおり。	縦13.0cm、横4.2cm	紙
88	"	看板(練馬名物練馬大根絵皿)	春日町にあった旧鹿島鯨本店で店内に掲示していた看板。	縦59cm、横26cm	陶製
89	"	練馬大根之図	春日町にあった旧鹿島鯨本店が作成した大根の穫り入れ風景を描いた水彩画。	縦58.0cm、横66.0cm	水彩画
90	"	風呂敷(北一商店会)	北一商店会が作成した風呂敷	縦87cm、横87cm	布
91	"	マッチ箱(練馬区独立30周年記念)	練馬区独立30周年を記念して昭和52年に作成された配布用のマッチ箱。石神井公園三宝寺池の絵柄が配されている。	縦5.8cm、横8cm、高さ2.1cm	紙・木
92	"	チガヤ馬(一式・民芸品)	チガヤで作成した七夕の願馬。2本の竹飾りの間に荒縄をわたし、雌雄一対のチガヤ馬を向い合せに吊るした。	竹筒型(長さ30cm)、絵馬型(縦12cm、横16cm)	チガヤ
93	"	天神机	寺子屋で使われた机	縦32cm、横72cm、高さ22cm	木
94	衣食住 (衣)	袴	江戸時代の礼服	幅76cm、丈59cm	布
95	"	買い物かご	女性が買物などで使用した昭和時代の持ち手付の籠	幅33cm、奥行20cm、高さ35cm、口部(幅30cm、奥行19cm)	籐製
96	"	黒留袖(婚礼用)	昭和28年頃に使用された既婚女性が婚礼時に着用した祝儀用の着物(式服)。裾模様のある黒地の紋付。	身丈150.0cm、桁122.0cm	布
97	"	簪(紋入り)	女性の髪飾り。「糸輪に蔦」紋入り。	長さ13.7cm、飾り径1.5cm	白銅製
98	"	櫛	髪の毛をとくす時に使う道具。髪飾りにもすく	長さ10cm、幅3.5cm	象牙製、月形
99	"	柄鏡	青銅製で、表面をよく磨き、その上に錫アマルガムを塗って、姿・形を映してみる道具の手鏡。「福寿」「天下藤原政重」と宝尽の絵が浮き彫りされている。	径20.5cm、厚さ0.3cm、柄の長さ10cm	銅・錫合金製
100	"	鏡台	鏡を取り付けた化粧用の台。布製の鏡台掛けが付いている。	鏡部(縦42cm、横25.5cm)、台(横33cm、縦19.5cm、高さ9.5cm)	木、鏡
101	"	洗面・裁縫用具(一式)	洗面・裁縫用具	箱(縦17cm、横12cm、高さ5.5cm)	
102	"	火熨斗(ひのし)	中に入れた炭火の熱気を利用して、布地に押しあててしわを伸ばし、また、ひだをつけるための金属製の器具。	全長38cm、火入れ(径11.5cm、深さ6cm、厚さ0.5cm)、柄(長さ26cm、太さ径4cm)	真鍮製。内底にひだがある。
103	"	炭火アイロン	中に入れた炭火の熱気を利用して、布地に押しあててしわを伸ばし、また、ひだをつけるための金属製のアイロン。1.9kg。	総高16cm、火入れ(舟形、長さ17cm、最大幅9.5cm、高さ8cm)、にぎり(長さ11cm、太さ径3cm)、アイロン敷(長さ17.5cm、幅9.5cm、厚さ1.5cm)	鉄
104	"	洗濯板	汚れた普段着などを洗う洗濯用の板。溝30筋。石鹼置きが付いている。	縦50cm、横23cm、厚さ1.5cm	木
105	"	洗濯機	サンヨー洗濯機SW-145。汚れた普段着などを洗う電気で動く洗濯用の機械。脱水用にローラー式の絞り機が付いている。	奥行42cm、幅52cm、高さ最大91cm(本体部78.5cm)	金属製

106	"	足踏みミシン	シンガー製ミシン。洋服などを縫う時に使う、足で踏んでローラーを動かすタイプの縫製用機械。	幅86.0cm、奥行41.0cm、高さ81.0cm	木、鉄
107	衣食住(食)	鉄鍋	煮炊き用の鍋	径37cm、高さ18cm、蓋の径33cm	鉄、木(蓋)
108	"	羽釜	炊飯用炊事道具。釜に羽が付いており主にかまどでの飯炊きなどに使われた。	径29cm、鱗5cm、高さ25cm	鉄、木(ふた)
109	"	飯盒	炊飯兼用ができる携帯用の弁当箱。	長径17.5cm、短径10.5cm、高さ14.5cm	アルミニウム
110	"	ほうろく	炒りもの用の鍋。大豆やごまなどを炒った。	上部径40cm、底径34cm、高さ10cm	鉄
111	"	手桶	台所の水汲み用の手桶	全高50cm、桶部【口径30cm、底径27cm、高さ29cm】	木、鉄
112	"	柄杓	水壺の水を汲みとるための、筒型の容器に長い柄が付いている道具	径11cm、高さ11cm、柄の長さ42cm	竹
113	"	まつうら籠	蓋付き足付きの籠。食物や食器を入れる等多用した。	笊部(径37.5cm、高さ10cm)、蓋の径40cm、足の高さ2cm	竹
114	"	木鉢	こね鉢。米粉や麦粉を水で練り合わせる時などに使用した。	径56cm、高さ14cm、底径27cm、内径47cm、深さ14.5cm	木
115	"	芋焼き器	焼き芋を焼く道具。陶製。上下2段でできている。	上部の芋入れ部(径27cm、高さ16.5cm)、下部のこんろ部(径25.7cm、高さ13cm)	陶製
116	"	製麺機	うどんやそばをのして切る機械。	縦51cm、横40cm、高さ36cm、打ち部の幅12cm	金属(鉄、真鍮)
117	"	すり鉢	ゴマ等をすり砕く鉢	口径36cm、底径21cm、高さ17.5cm	陶製
118	"	鯉節削り器	鯉節を削る炊事用具	鉋部(刃渡り4.5cm、台幅7cm、長さ22cm、厚さ2cm)、入れ箱	木、鉄(鉋の歯)
119	"	杓子(しゃもじ)	ご飯をおひつなどから盛り付けるための飯盛用のへら。	幅7cm、長さ20cm	竹
120	"	あられ炒り	金網の中にあられを入れて火にかけ、焦がさないように取っ手を持って動かしながらあられを炒る道具。	縦28.5cm、横21cm、高さ6.5cm、網目0.4cm、取手の長さ25.5cm	金網製(鉄、木)
121	"	トースター	三菱製MT-1A型トースター。昭和22~23年に購入。パンを焼く道具。	縦17cm、横12cm、高さ20cm	金属製
122	"	わさびおろし	小型のおろし器	縦13cm、横9cm	陶製
123	"	あげざる	うどんなどを湯がいてとりだす炊事用具	全長29cm、すくい部(径13cm、高さ25.5cm)	竹
124	"	電気釜	電気を利用し、スイッチ一つでご飯炊きができる炊事用具。昭和34年当時の価格3,200円。東京芝浦電気製。	径24cm、高さ24cm	金属製

125	"	飯台	飲食器のひとつ。祝儀や人寄せの時の赤飯や餅等を入れておく蓋のある大型の箱。	口径52.5cm、深さ10cm、高さ30cm、蓋直径55.5cm	木、竹
126	"	徳利	酒屋で酒を入れて売するための容器。貧乏徳利と呼ばれる。酒屋名や地名などが書き込まれた。「下土支田」「中野屋」「山中」の文字の記載がある。	注口径5cm、胴径23cm、底径20.5cm、高さ38cm	陶器
127	"	徳利	酒屋で酒を入れて売するための容器。貧乏徳利と呼ばれる。酒屋名や地名などが書き込まれた。「東大泉町」「初音屋」「新」の文字の記載がある。	底面径11.0cm、高さ27.0cm	陶器
128	"	岡持	手桶に工夫を加えて、手をつけ、蓋をはめた出前用の食物を持ち運ぶための浅い桶。	総高32cm、桶部(口径28cm、深さ9.5cm、蓋径29cm)	木、竹
129	"	酒甕	酒店の販売用の酒容器。「登録商標 目出たい 繁栄萬々歳 吟醸」、「石神井 八方酒店 へへ忠」の記載がある。	口径6cm、胴径28cm、底径21cm、高さ33cm	陶器
130	"	臼	穀物や餅を杵でつくための道具。円筒形の木や石の一方の面を、椀の形にえぐって、その中に穀物などを入れてつく。	口径40cm、上部径53cm、底径53cm、高さ48cm	木
131	"	杵	蒸した米などを臼に入れてつくための道具。	打部:長さ42cm、径12cm、柄の長さ59cm	木
132	"	竪杵	中央部で握ることができるようにくびれをもつ杵。手で持って上下につく。脱穀・米つきなどに用いた。	全長90cm、打部の長さ38cm、打部の径10cm	木
133	"	石臼	石でつくった粉引き用の臼。円盤の形をした石を二枚重ね、間に穀粒を入れて回し、粉にする道具。	径37cm、穀類の落とし穴の径3cm、高さ24cm	石、木
134	"	粉ふるい箱	大量の粉をふるうのに用いるふるい箱。篩網、外箱、内箱、粉受けを組み合わせる。	縦34cm、横58cm、高さ31.5cm、網目0.01cm×0.01cm	木、金属
135	"	1ドア冷蔵庫	昭和42年に製造された三菱冷蔵庫MR-070C。	幅45cm、高さ65cm、奥行45.3cm	金属
136	"	せいろ台	釜とせいろの間に挟む板。せいろを載せる台。中央に蒸気を通す穴が空いている。	縦58.0cm、横58.0cm、高さ3.0cm	木
137	衣食住 (服物・履物)	饅頭笠	頂きは丸く、饅頭を横に半分にしたような形に作ったかぶり笠。男女共使用するが女性の方が多。	笠径47.5cm、深さ17.4cm	竹皮
138	"	山高帽	礼装用の中央がやや高くなっている帽子	高さ14cm、外径縦30cm、内径横19cm、つば5cm	フェルト
139	"	藁草履	農村などで働くときの、藁で編んだ履物。鼻緒は布で補強している。	長さ21cm、幅10cm	藁、布
140	"	蓑	農村などで雨の日の野外作業に使う合羽。	長さ約120cm、最大幅70cm	チガヤ
141	"	日傘	女性が日差しよけに用いた笠。	長さ67cm、全開径75cm、柄長さ52cm	布、竹
142	衣食住 (住)	鬼瓦	屋根の棟飾りに用いた紋付の装飾用瓦。棟飾りには鬼面をかたどったものも用いられたことから、「鬼瓦」と呼ぶ。	総高50cm、横幅76cm、厚さ26cm	瓦

143	"	明かり障子	額入りや千木格子が施された4枚組の明り取り用の障子。	縦176cm、横64.5cm、厚さ3cm	木、和紙、ガラス
144	"	囲炉裏用具(自在鉤、火棚、火床枠)	囲炉裏で自在鉤に鍋や鉄瓶の弦をかけ、高さを自在に調節した。縄(槍)、木、竹、鉄製などがある。	火棚:縦83cm、横83cm、厚さ2cm 火床枠:縦77cm、横104cm、厚さ5cm 自在鉤:全長155cm(筒部121cm)、横木30cm	竹、木
145	"	風呂桶	昭和30年代末期に使用された、プロパンガスで下部から風呂釜を燃焼し、お湯を温めるタイプの風呂桶。木製。一人用。	縦径86cm、横径67cm、高さ75cm、焚口(縦9cm、横20cm)	木、鉄
146	"	井戸替え用具(滑車、玄蕃桶、縄、錘)	井戸掘りおよび井戸替え・井戸さらいに使われた道具。井戸上に丸太を組み、滑車を下げ片方は錘、もう一方は桶を吊るし、2~3人で井戸の水をすっかり汲み出して、掃除を行った。	滑車:高さ340.0cm(滑車部径30.5cm、厚さ6.5cm)、玄蕃桶:総高52.0cm、底径44.0cm、桶口高さ37.0cm、縄の長さ約22m、太さ周10.0cm、錘:高7.5cm、幅14.0cm	木、鉄、針金、竹、金輪、棕櫚縄、石、鉄輪
147	"	防災用目張り付きガラス窓	戦時中、空襲に備えて爆風等でガラスが破損、散乱するのを防ぐため目張りを施したガラス窓。二枚一組。	縦70cm、横88cm	木、ガラス
148	"	グラントハイツで使われたレンガ	光が丘にあった旧グラントハイツの住宅用等に使われたレンガ。「YOKOHAMA」の刻印がある。	縦21.5cm、横15.0cm、高さ6.0cm	レンガ
149	"	橋銘板	中之橋や長光寺橋などの銘板10種。橋の名称や竣工年月日が記されている。中之橋 東山下橋 新小橋 道楽橋 糺谷橋 小橋 四の宮宿橋 長光寺橋 宮宿橋 正久保橋	中之橋:縦37cm、横16cm 新小橋:縦30cm、横12cm	金属
150	"	長火鉢	玄関や居間での暖房や、銅壺や五徳に鉄瓶を置いて湯沸しを行った火鉢。猫板・引き出しがついている。	縦32.5cm、横60cm、高さ19.4cm	木、鉄
151	"	銅壺	どうこ。長火鉢に据え付けて湯沸し等に使用した道具。	縦17.5cm、横32cm、高さ12cm	銅
152	"	大火鉢	昭和30年代に東京学芸大学附属竹早小学校で使用。炭火を入れて室内を暖房した。また、体育館で行われる冬季の行事でも使用された。	縦横共65cm、高さ33cm、鉢径51.5cm、深さ17cm	木、鉄
153	"	行火	あんか。陶器等の蓋付き小壺の中に炭火を入れ、櫓型の陶器に据え置き、布団をかけて手足を温める道具。	上部各21cm、下部各23cm、高さ24.5cm	陶器
154	"	豆炭あんか	豆炭を燃料として、手足を温めた道具。布団をかけて手足を温めた。	縦14cm、横19cm、高さ9cm	鉄、石綿
155	"	練炭	練炭火鉢用の固形燃料。練炭の上部に炭火を置き、着火を確認後、火ばさみ等で裏返して練炭火鉢に入れて下から燃焼させた。火力が強く長時間使えるため、暖房や湯沸し、煮炊きに使用した。	径12cm、高さ10.5cm	無煙炭、コークス、木炭
156	"	だるまストーブ(灰かき、火かき、十能付き)	石炭を燃料にしたストーブ。木材等で火を起こし、上部の投入口から石炭をくべて着火させた。学校での暖房に主に使用。燃焼ガラや灰を下部口から掻き出して清掃した。燃焼中に水をかけるとよく燃えると言われた。また、上部でアルミ弁当を温めたり、湯沸しができた。	高さ66.5cm、底部径44cm、上部径31cm	鋳物

157	"	湯たんぽ	中に湯を入れ、寝床などに入れて足・腰などを温める道具。陶製。	長さ24.5cm、幅15cm、高さ9.5cm、口径2cm	陶製、栓:コルク
158	"	角行燈	四角な木枠に紙を張り、中に油受けを置いて火をともした照明器具。	高さ77cm、火袋(高さ33.5cm、幅26cm)、底部縦横各31.5cm	木、和紙
159	"	弓張り提灯	ろうそくを中にとりして使用した折り畳みのきく携帯用の照明器具。提灯には「石神井西尋常小学校」と書かれ、箱には「東京市 石神井西尋常小学校」の箱書きがある。昭和7年から昭和16年頃まで使われた。	総高49cm、最大径24.4cm、上部径11.6cm 底部径10.3cm	木、竹、和紙
160	"	ランタン	角柱形でガラス張りの、手提げランプ。吊るすこともできた。	総高25cm、ランプ高15cm、縦横各8cm	鉄、ブリキ、ガラス
161	"	団扇	手に持ってあおいで風を起こす道具。主に納涼用具として使用された。「武蔵野線石神井駅前 丸明運送店」の記載がある。	全長40cm、柄の長さ13cm、最大幅23cm	竹、和紙
162	"	団扇	手に持ってあおいで風を起こす道具。主に納涼用具として使用された。「純良牛乳搾取販売所 加藤牧場」等の記載がある。	全長39cm、柄の長さ12.5cm、最大幅22cm	竹、和紙
163	"	団扇	手に持ってあおいで風を起こす道具。主に納涼用具として使用された。「暑中御伺い丸石の自転車 横山自転車店 谷原二丁目」等の記載がある。	全長35.7cm、柄の長さ12cm、最大幅23.5cm	竹、和紙
164	"	箱枕(台部)	底が木の箱になっているくり箱枕の台の部分。	上部縦5.5cm、底部縦9cm、上部横14cm、底部横23cm、高さ11cm	木
165	"	卓袱台	折り畳みのできる脚のついた、座って食事をするための食卓。	直径73cm、高さ26cm	木
166	"	箱枕	寝る時、頭をのせて使用したもの。底が木の箱になっており、中にそば殻などを入れて両端を括った、まげの崩れを防ぐための枕。	全高18.0cm、枕(長さ25.0cm、径9.0cm)、台(長さ22.0cm、幅10.0cm)	木、布
167	"	箱枕	寝る時、頭をのせて使用したもの。底が木の箱になっており、中にそば殻などを入れて両端を括った枕。嫁入り道具として持ち込まれた。	全高18.0cm、枕の直径9cm、箱の上部(縦8cm、横19cm)、箱の下部(縦10cm、横22cm)、箱の高さ8.5cm	木、布
168	"	扇風機	モーターによる羽根車の回転によって風を吹き送る器具。納涼用具。東京芝浦電気製。大正から昭和26年頃まで使用された。製造メーカー名のロゴ入り。7.4kg。	高さ42cm、回転部の枠径34cm、羽根の長さ14.5cm	鉄
169	"	扇風機	モーターによる羽根車の回転によって風を吹き送る器具。納涼用具。東京芝浦電気製。製造番号LP100-50-60夕顔。昭和36年製。箱付き。	扇の径38.0cm、高さ62.0cm 箱(縦38.0cm、横38.0cm、高さ67.0cm)	鉄、プラスチック
170	"	黒電話	声の音波を電流に変え、離れている人と話せるようにした機械。ダイヤル式で受話器と送話器が一体に組込まれている。昭和後期の製造。	高さ22cm、奥行22cm	プラスチック、金属
171	"	蠅帳	金網などを張り、蠅除けと風通しを兼ねた食物や食卓を傘状に覆うための道具。	長径64.5cm、短径48.5cm、高さ32cm	金属、網(布)

172	"	書棚	書物を並べて置くための棚。観音開き戸で棚は可動式。旧内田家住宅で使用されていた家具。	奥行33.5cm、横84.5cm、高さ134cm	木、ガラス
173	"	ちり取り	掃き集めたごみなどをすくい取る庭履き用の掃除用具。	口径35cm、奥行31cm、深さ7cm、柄の長さ25cm	木
174	"	ゴミ箱	家庭のごみ収集のために街角に置かれていた、ごみを入れておくための容器。	縦40cm、横60cm、高さ57cm	コンクリート
175	"	鉈	まき割りなどに用いた刃物。	刃幅6.5cm、刃渡り12.4cm、持ち手19.9cm	鉄、木
176	"	木樋	江戸時代、上水を引くために用いられた細長い木の管。	長さ304cm、幅46cm、高さ48cm	木
177	"	木樋	江戸時代、上水を引くために用いられた細長い木の管。	長さ41.0cm	木
178	衣食住 (飲食器)	アルミ弁当箱	外出先で食べるために器に入れて持ち歩いたための箱。この弁当箱は昭和36年頃のもの。	縦9.6cm、横13.6cm、高さ2.8cm	アルミニウム
179	衣食住 (その他)	灰式カイロ	通気孔の開いた金属容器に密閉して灰をくむみ、そこで炭などを燃焼させるしくみの携帯用の身体を温めるための暖房器。	縦6.5cm、横12.0cm、厚さ2.5cm	金属
180	民族知識 (医療・保健具)	薬研	薬種を細かく砕くのに用いる、舟形の器具。漢方の製薬などに用いた。	縦59cm、横10.5cm、薬研直径18cm	木、鉄
181	民族知識 (民族知識)	掛け時計	住宅の柱などに掛けたやや大型の時計。	文字盤径28cm、全長55.5cm、幅19cm	木、金属
182	"	檜時計	火の見檜のような四角い台の上に置かれた置時計。	幅31.5cm、奥行31.5cm、高さ108.5cm	木、金属
183	芸能・娯楽 (芸能用具)	琵琶	弦楽器の一種。大きなしゃもじのような形の胴に4本の糸を張り、ばちで鳴らす楽器。	全長87cm、胴幅30cm、撥(長さ30cm、打部幅12cm)	木、黄楊(撥)
184	"	大黒面	高松囃子連に関する囃子資料。七福神の一人、福德の神の面。	縦21.0cm、横20.0cm、厚さ8.0cm	木(着色)
185	"	もどき面	高松囃子連に関する囃子資料。主役のまねをしたり、からかったりする道化の性格をもつ面。	縦20.5cm、横16.0cm、厚さ7.2cm	木(着色)
186	"	もどき面 (ひょっここ面)	高松囃子連に関する囃子資料。主役のまねをしたり、からかったりする道化の性格をもつ面。	縦19.4cm、横13.8cm、厚さ7.8cm	木(着色)
187	"	獅子頭	高松囃子連に関する囃子資料。獅子舞などにかぶる、獅子の頭に似せた木製の仮面。	縦29.0cm、横33.0cm、奥行31.0cm	木(着色)
188	芸能・娯楽 (遊具・玩具)	手毬	手について遊ぶ、鞠。綿を芯にして糸で巻いた。	径8cm	錦糸、絹糸
189	"	小太鼓	太鼓型の鳴り物玩具の一種。	径16cm、厚さ6.5cm、径13cm、厚さ8.5cm	木、皮、鉄
190	"	ままごと道具	子どもが遊びとして、ままごとに使ったミニチュアの道具。魚焼き網、かまど、羽釜、鍋、桶のセット。	魚焼網(全長20cm、幅12cm)、釜(全長10cm、高さ10cm)、鍋(口径13cm)、七輪(高さ16cm)、桶(高さ30cm)	木、瓦、真鍮、鉄

191	"	土めんこ	粘土で型抜きした素焼き製。人の顔や物の形、円盤状の二種類に分けられる。現在の紙めんこのルーツ。江戸時代後半から明治初期にかけて子どもの中で流行った遊びの一つ。	径2.5cm、厚さ0.7cm	土(素焼き)
192	"	羽子板	羽を突いて遊ぶ、柄の付いた長四角形の板。裏面に美人画や歌舞伎役者を木目込み仕上げなどで描き、装飾性をもたせている。	ガラスケース入り(縦58.5cm、横26cm、高さ9cm)	木、ガラス、布
193	芸能・娯楽 (芸能・娯楽)	鈴わり	運動会などで競技として、鈴わり競争に使用した球形の竹カゴ。	径50cm	竹
194	"	虫籠	虫や昆虫を入れて飼うのに使用した竹製の籠。	縦5.5cm、横7.5cm、高さ9.5cm	竹、木
195	行事 (年中行事用具)	粟穂稗穂	アワボー・ヒエボー。豊作祈願の小正月の行事に用いる飾り。1月6日に作り、1月7日～14日まで飾った。	全長45cm、穂部長さ11cm	ニワトコ、竹
196	"	ちがや馬	チガヤで作成した七夕の願馬。2本の竹飾りの間に荒縄をわたし、雌雄一対のチガヤ馬を向い合せに吊るした。	頭長(8cm)、胴長(9cm)、背(14 ¹ cm、11cm)	チガヤ

【出土品】

番号	分類	名称	内容等	縦×横	備考
1	旧石器時代	比丘尼橋遺跡出土の旧石器	白子川右岸の台地端に所在する、流域を代表する旧石器時代遺跡から出土した、水晶製や安山岩製ナイフ形石器、台形様石器、スクレイパー等総数840点。	水晶製ナイフ形石器2.9cm×1.4cm×0.7cm 重さ2.4g	大泉町2丁目
2	旧石器時代	武蔵関遺跡出土の大型槍先石器	旧石器時代、縄文時代の大規模な遺跡であることが推定される武蔵関遺跡から出土した。狩猟道具と推定される。素材は珪質頁岩。	長さ約22cm	関町北3丁目
3	旧石器時代	高稲荷遺跡出土の旧石器	石神井川左岸の台地縁辺から出土した硬質頁岩を主体とするナイフ形石器や錐、彫器など、466点。主に東北地方で産する石材である頁岩利用や、長野県を中心に分布する小坂型彫器の存在は、旧石器時代に遠隔地まで広く交易が行われていたことを示している。	466点	桜台6丁目
4	旧石器時代	天祖神社東遺跡出土の石核	長野県霧ヶ峰産の黒曜石製の石核。主に石鏃(矢じり)の製作に用いられたと考えられる。縄文時代中期の遠隔地との交流を考える上で貴重な資料。	長さ92mm、幅62mm、厚さ42mm、重さ470g。	関町北3丁目
5	旧石器時代	東早淵遺跡出土の局部磨製石斧	3万年前の旧石器時代のローム層より出土した東早淵遺跡出土の局部磨製石斧3点。2点が完全な形で出土。1点は刃の部分の破片。周りを細かく加工し、刃を中心に丁寧に磨いている。区内では古い部類の石器。	大きいものは長さ約9cm	早宮1丁目
6	縄文時代	小竹遺跡出土の大珠	小竹遺跡の墓坑から出土した縄文時代中期後葉の副葬品の大珠。ヒスイ製。石材は、新潟県糸魚川産のヒスイを用いている。二箇所孔があげられ、紐を通して下げる垂飾り(装飾品)として使用されたと考えられる。	長さ50mm、幅20mm、厚さ7mm、重さ11g	小竹町1丁目
7	縄文時代	縄文時代の竹カゴ	縄文時代後期のもものと推定される竹カゴ。タケ・ササ類を用いた底部は四ツ目編みや網代、胴部は四ツ目編みの編物カゴ。	竹カゴ	東大泉3丁目
8	縄文時代	北新井遺跡出土の土偶	北新井遺跡の住居跡から出土した縄文時代中期後葉の土偶。左手部分が欠けているが上半分はほぼ残り、顔には目、口、鼻が、胸部には乳房が表現されている。顔貌表現がみられる数少ない事例のひとつ。安産祈願。	高さ4.9cm、最大幅4.9cm	豊玉北2丁目
9	縄文時代	八ヶ谷戸遺跡出土の大型把手付縄文土器	縄文を地文として、渦巻き状モチーフで装飾した八ヶ谷戸遺跡出土の縄文時代中期の大型把手付縄文土器(深鉢形土器)。把手は、東北地方の土器の特徴がみられる大形のS字状文様が施されている。	高さ42cm、口径約19cm、把手の高さ約10cm	大泉町2丁目
10	縄文時代	大泉井頭遺跡出土の有孔鏢付土器	大泉井頭遺跡の住居跡から出土の有孔鏢付胴張りの壺形土器。縄文時代後期で有孔鏢付土器は珍しく、区内唯一の出土例。	口径14cm、器高9cm、器厚4～8mm	東大泉7丁目
11	縄文時代	丸山東遺跡出土の片口土器	丸山東遺跡出土の口縁部の一方に液体を注ぐように孔があり、注ぎ口がつけられている片口土器。底部は欠けているがほぼ完形。	口径33.6cm、注ぎ口を含む高さ40.5cm	大泉町3丁目
12	縄文時代	中村南遺跡第2地点5号住居址出土土器	中村南遺跡の住居址から出土した縄文時代中期中葉の土器群。深鉢形土器、浅鉢形土器と深鉢形土器、鉢形土器、台付浅鉢形土器、鉢形土器の6点が出土。	土器6点。	中村南1丁目
13	縄文時代	丸山東遺跡出土の石棒	丸山東遺跡から出土した緑泥片岩製の縄文時代中期の祭祀・祭りの道具と考えられる石棒。有頭で頭の部分に沈線が刻まれている。区内でも数少ない大形の石棒。	最大長79.1cm、最大幅10.1cm、重さ約10.3kg(保存処理後)	大泉町3丁目
14	弥生時代	春日町出土の壺型土器	春日町・尾崎遺跡近辺出土の弥生時代後期の壺型土器。壺の口のへりに棒状浮文、くびの部分に円形浮文、胴には平行に羽状縄文が赤く彩色されている。	高さ31.5cm	春日町 丁目

15	弥生時代	丸山東遺跡 方形周溝墓出土品 (ガラス玉)	丸山東遺跡方形周溝墓7基の一括出土品。弥生式土器、ガラス玉、管玉、鉄剣が出土。白子川流域の弥生時代後期の墓制を知る貴重な遺跡。	弥生式土器他	大泉町3丁目
16	弥生時代	丸山東遺跡出土の 木製品	丸山東遺跡から出土した弥生時代末～古墳時代初頭の鋤・鍬等の農耕具などの木製品。白子川の旧河道岸に築かれていた木道遺構付近から、投棄された状態でまとまって出土。鋤・鍬等の農耕具、杓子・くり物等の生活用品、梯子・扉等の建築部材など多岐にわたる。	木製品69点	大泉町3丁目
17	古墳時代	中宮遺跡5号住居 址の盛土状遺構出 土品	中宮遺跡の盛土状遺構一括出土品。壺形土器は、小型、広口、平底で、ハケ、ヘラナデ、ヘラケズリで調整。高坏形土器は、坏部をハケ調整ののち、ヘラミガキが施されている。内外面に赤色塗彩された完形品。古墳時代初頭の住居廃絶時における祭祀の様相を示す土器群。	壺形土器：器高 5.5～12.0cm 高坏形土器：口 径19.3cm、器 高13.7cm	早宮3丁目
18	奈良時代	貫井二丁目遺跡 出土の金銅製飾具	石神井川に注ぐ貫井川左岸の台地縁辺部の奈良時代の貫井二丁目遺跡H2号住居址から出土した金銅製飾具。馬具飾の系譜から帯の飾り金具への変遷の様相を知ることができ、律令体制下の地方集落を考える上でも貴重な資料。	長方形 縦2.1cm、幅 3.2cm、厚さ 0.4cm	貫井2丁目
19	室町時代	石神井城跡出土 小刀	石神井城跡の推定主郭の土塁盛土下層から出土した鉄製小刀。刃の先端部が折損するが、茎まで遺存。反りのある片刃の小刀。	現存長16.3cm	
20	江戸時代	小竹二丁目遺跡出 土の玩具	江戸からもたらされた土製の猫のミニチュアと泥メンコ。		小竹2丁目

【アニメ・イラスト】

番号	分類	名称	内容等	縦×横	備考
1	アニメ関連機器	アニメーション撮影台	東映アニメーション(株)で使用されていた草創期のアニメーション専用のマルチプレーン撮影台。昭和34年(1959)製の35mmカメラが備わる。セル画や背景画を各段に乗せ、少しずつ動かしながら同時に撮影すると、遠近感のある画面ができる。		西遊記や宇宙戦艦ヤマト、銀河鉄道999などがこの撮影台で撮影されている。
2	イラスト	竹とんぼ	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
3	イラスト	手まり	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
4	イラスト	ねっき	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
5	イラスト	石けり	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
6	イラスト	竹馬	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画

7	イラスト	竹馬2	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
8	イラスト	めんこ	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
9	イラスト	ヨーヨー・けんだま	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
10	イラスト	輪まわし	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
11	イラスト	ビー玉	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
12	イラスト	凧あげ	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
13	イラスト	独楽まわし	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
14	イラスト	羽根つき	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画
15	イラスト	お祭り	子どもたちの昔の遊び(彩色)		小雑誌「子どもたちの生活史 - ねりまのこどもたち -」掲載画

【文化財】

番号	分類	名称	内容等	縦×横	備考
1	建造物	旧内田家住宅	区内に現存する数少ない伝統的茅葺き屋根の民家建築。練馬区中村にあった茅葺き寄棟造、平入りの建築物。明治20年代初頭の建築と推定される。平成22年に石神井公園ふるさと文化館の屋外展示施設として、区立池淵史跡公園へ移築復元。	主体部15.3×10.9m整形四間取り。角屋6.4×4.4m	明治20年代初頭建築
2	石塔等	尾張殿鷹場碑	大泉町にあった將軍家と尾張徳川家の鷹場の境界に建てられた石柱。元は、大正2年(1913)頃まで、南大泉1-17地先に建っていた。碑正面には「従是西北尾張殿鷹場」の文字が彫られている。	石造角柱 78×15×15cm	造立年不明
3	石塔等	長享二年の申待板碑	長享2年(1488)の板碑。地域の人々が申待供養(庚申の日に神仏を祀って徹夜をする民間信仰行事)を記念して造立した板碑としては、国内でも三番目に古いものである。	97.4×31×2.8cm	長享二年(1488年)
4	衣装・民俗芸能等	富士講巡拝装束	越後山地域(大泉町の一部)の富士講(富士山を信仰する民間信仰)である越後山太々講の富士山巡拝に使われた木綿白生地(白綿)の巡拝装束。「大正十年(1921年)八月十九日」の年記が墨書されている。	行衣、腹掛、鉢巻、手拭い、脚半(対)各1点。	大正10年(1921年)
5	楽器	石神井西尋常小学校のリードオルガン	昭和初期に、石神井西小学校の前身である、石神井西尋常小学校に配備されたもの。国産オルガン初期の普及型足踏み式リードオルガン。	上部(長さ129cm、幅43cm)、高さ112cm、鍵盤36鍵	昭和初期